



(公財) 山階鳥類研究所

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
電話：04-7182-1101 FAX：04-7182-1106
<http://www.yamashina.or.jp>

第22回山階芳麿賞 日本雁を保護する会への贈呈を決定しました

第22回山階芳麿賞を日本雁を保護する会（呉地正行会長）に贈呈することを決定しましたのでお知らせいたします。山階芳麿賞は国内において鳥学および鳥類保護に顕著な功績のあった方（団体を含む）を讃える賞で、平成4（1992）年から実施しています。



千島列島エカルマ島で放鳥されたシジュウカラガンの幼鳥と呉地正行日本雁を保護する会会長の写真

日本雁を保護する会は、約半世紀前の同会創立当時、激減していた、日本に渡来するガン類を対象に、保護と調査研究を国際的な広がりをもって進め、日本に渡来するガン類についての知識を大きく前進させ、保全上も大きな成果をあげました。その功績が山階芳麿賞選考委員会（奥野卓司委員長）により評価され、第22回山階芳麿賞を贈呈することが決定いたしました（※添付資料(1) 贈呈理由参照）。贈呈式は、7月22日（金）に関係者が出席して東京都内で行う予定です。

※この資料に掲載した写真のデジタルデータをご希望の方は下記までご連絡ください。

本件についてのお問い合わせ先

(公財) 山階鳥類研究所

広報ディレクター：平岡考

電話：04-7182-1101 FAX:04-7182-1106

携帯電話：090-5332-2769

山階芳麿賞（やましなよしまろしょう）

日本の鳥学及び鳥類保護に顕著な功績のあった者（団体を含む）を讃え、わが国の鳥学の発展並びに鳥類保護の振興に寄与することを目的として、平成4（1992）年に、山階鳥類研究所財団設立50周年を記念して設けたものです。賞の名称は、山階鳥類研究所の創業者、山階芳麿博士の功績を記念しています（添付資料(3)をご参照ください）。

記念シンポジウムを開催します

**ガンが渡る風景を日本の空にもう一度
～絶滅から復活への道を歩み始めた日本のガンと、
日本雁を保護する会52年間の活動～**

第22回山階芳麿賞の贈呈を記念した講演会を下記日程で開催いたします。詳細については、あらためてご案内いたします。

【日時】令和4（2022）年9月23日（金・祝）

【場所】東京都内（予定）

申込み制を予定しています。新型コロナウイルス感染症の状況によって、ウェブによる開催への変更も検討します。詳細が決まりましたら山階鳥研のウェブサイトでご案内します。

【講演】

『日本へ渡るガン類の歴史とその保全・復活の取り組み』 呉地正行（日本雁を保護する会会長）ほか

【参加費】無料

【主催】(公財) 山階鳥類研究所

【共催】朝日新聞社

日本雁を保護する会への山階芳麿賞贈呈理由

山階芳麿賞選考委員長 奥野卓司

日本雁を保護する会は、1970年に、仙台市福田町で越冬するマガンの保護を目的とした「福田町の雁を保護する会」として発足して以来、戦後激減していたガン類の保全と調査研究に貢献してきました。その活動と歩調を合わせて、1970年には日本で5,000羽余りしか確認されなかったガン類は、現在は20万羽を越えるまでに復活しました。

調査研究上の成果として、日本に渡来するガン類の分布と渡りに関する全体像の理解を大きく前進させたことがあります。まず、ヒシクイの2つの亜種、亜種ヒシクイと亜種オオヒシクイの野外識別法を確立し、それまで明らかではなかった両者の生態の違いと日本での越冬状況を解明しました。また、「ガン類渡来地目録」(1994)で、全国レベルでガン類の渡来地の情報を取りまとめました。さらに日本で越冬する主要なガン類であるヒシクイとマガンについて、首環標識や人工衛星発信器を用いたロシアなどとの共同調査により、日本に渡来する個体群の繁殖地を解明しました。

保全上の成果として、発足後間もない1971年には、激減していたマガンとヒシクイを狩猟鳥から外し、天然記念物に指定するキャンペーンを行い、コクガンも含めた3種の天然記念物指定を実現しました。日本への渡来がほとんどなくなっていた希少ガン類の再導入は、生息域外保全を域内保全に結びつけた重要な業績です。このうち、「シジュウカラガン羽数回復計画」は、仙台市^{やぎやま}八木山動物公園との協力関係を基盤に、アメリカ合衆国、ロシアとの協力を同会が中心となって進め、その結果、2021年には1万羽近くのシジュウカラガンが日本で越冬するまでに回復しました。ハクガンについても、日露米3カ国が共同で「ハクガン復元計画」を行った結果、2021年には日本への飛来数が2,000羽を越えました。次に、「ふゆみずたんぼ」(冬期^{たんすい}湛水水田)の提唱と実践は、越冬ガン類と農業の「共生」を目指し、水鳥の生息地を拡大するとともに、生物多様性の向上に寄与するものです。

同会はまた、会や会員による各種の催しや幅広い著述でガン類の現状と保護の必要性について社会に普及啓発してきました。さらにラムサール条約や生物多様性条約の締約国会議における水田決議の採択のために尽力するなど、東アジアの鳥類保護の主体として国際的にも役割を果たしてきました。

このように、同会は半世紀以上にわたり、日本に渡来するガン類の保護と調査研究を、国際的な広がりをもって進め、日本に渡来するガン類についての知識を大きく前進させるとともに、保全上も大きな成果をあげ、その社会的な影響も大きなものがあります。これらの業績を讃えて、山階芳麿賞選考委員会は、日本雁を保護する会に山階芳麿賞を贈呈することがふさわしいと判断いたしました。

第22回山階芳麿賞受賞者 日本雁を保護する会

【団体名称】 にほんがんをほごするかい 日本雁を保護する会

【設立】1970年9月「福田町の雁を保護する会」として発足（1971年1月「雁を保護する会」と改称。1997年4月「日本雁を保護する会」と改称）。

【役員】

会長	<small>くれち</small> 呉地正行
副会長	鈴木道男
事務局長	宮林泰彦

【目的】（会則第2条）

古来より日本国民に親しまれ、近年急激に減少したガンを中心とするガンカモ科の鳥類の保護をはかり、同時に調査研究を推進することをもって本会の目的とする。

【活動内容】（会則第2条）

1. 雁を中心としたガンカモ科鳥類の分布および生息地に関する調査研究を国内外で行なう。
2. 国内外で生理、生態、増殖等に関する調査研究を野外および飼育下で行なう。
3. 国内外の官民団体と情報交換を行なう。
4. 保護に関する提言、要望を行なう。
5. 会報『雁のたより』を発行する。
6. 研究誌『GOOSE STUDY』を発行する。
7. 調査研究および保護に関するシンポジウムあるいはワークショップを開催する
8. その他、本会の目的にかなう事業を行なう。

山階芳麿賞について

山階鳥類研究所は、平成 4(1992)年 7 月に行われた財団創立 50 周年記念行事の一環としてこの賞を設けることとしました。日本の鳥学及び鳥類保護に寄与された、山階鳥類研究所の創立者・故山階芳麿博士の功績を記念して、この賞を「山階芳麿賞」と名付けました。

山階芳麿賞は、日本の鳥類の研究及び鳥類保護に顕著な功績のあったものを讃え、わが国の鳥学の発展並びに鳥類保護の振興に寄与することを目的としています。

受賞者は「山階芳麿賞」選考委員会で選考されます。受賞者は、隔年度、原則として 1 名とし、選考の結果該当者がいない場合には、その年度の表彰は行いません。選考委員会は学識経験者その他理事長が必要かつ適格と判断する者 (5～12 名) で構成されます。

表彰は山階鳥類研究所総裁・秋篠宮文仁皇嗣殿下が行い、受賞者には表彰状と山階芳麿賞記念メダルが贈呈されます。記念メダルのデザインは、表・山階芳麿博士肖像、裏・ヤンバルクイナのレリーフとなっており、受賞年と受賞者氏名が刻印されます。ヤンバルクイナは沖縄県で発見され、昭和 56 (1981) 年に山階芳麿博士らが新種として発表した山階鳥類研究所のシンボルの一つです。なお、平成 15 (2003) 年度からはさらに副賞として「朝日新聞社賞」(賞金 50 万円と盾) が贈られています。

歴代の受賞者は下記のとおりです。

回数	氏名	所属・職名	受賞年月日	備考
第一回	羽田健三	信州大学名誉教授	平成 4 年 7 月 3 日	H6 年 11 月逝去
第二回	松山資郎	山階鳥類研究所顧問	平成 5 年 7 月 5 日	H12 年 8 月逝去
第三回	中村司	山梨大学名誉教授	平成 6 年 7 月 5 日	H30 年 11 月逝去
第四回	黒田長久	山階鳥類研究所所長	平成 7 年 7 月 5 日	H21 年 3 月逝去
第五回	中村登流	上越教育大学名誉教授	平成 8 年 7 月 3 日	H19 年 11 月逝去
第六回	正富宏之	専修大学北海道短期大学教授	平成 9 年 9 月 9 日	
第七回	樋口広芳	東京大学大学院教授	平成 10 年 7 月 4 日	
第八回	山岸哲	京都大学大学院教授	平成 11 年 7 月 3 日	
第九回	藤巻裕蔵	帯広畜産大学教授	平成 12 年 6 月 17 日	
第十回	小城春雄	北海道大学大学院教授	平成 13 年 6 月 1 日	

第十一回	中村浩志	信州大学教授	平成 14 年 6 月 7 日	
第十二回	石居進	早稲田大学名誉教授	平成 15 年 9 月 23 日	
第十三回	由井正敏	岩手県立大学教授	平成 16 年 9 月 23 日	
第十四回	長谷川博	東邦大学教授	平成 18 年 9 月 23 日	
第十五回	立川涼	愛媛大学名誉教授	平成 20 年 9 月 23 日	H29 年 5 月逝去
第十六回	森岡弘之	国立科学博物館名誉研究員	平成 22 年 9 月 23 日	H26 年 12 月逝去
第十七回	日本イヌワシ研究会		平成 24 年 9 月 23 日	
第十八回				
(特別賞)	橘川次郎	クイーンズランド大学名誉教授	平成 26 年 9 月 23 日	H28 年 5 月逝去
(特別賞)	小西正一	カリフォルニア工科大学名誉教授	平成 26 年 9 月 23 日	R2 年 7 月逝去
第十九回	上田恵介	立教大学名誉教授	平成 28 年 7 月 13 日	
第二十回	江崎保男	兵庫県立大学教授・兵庫県立 コウノトリの郷公園 統括研究部長	平成 30 年 7 月 2 日	
第二十一回	渡辺茂	慶応義塾大学名誉教授	令和 2 年 7 月 6 日	